

ハルマゲドンの結末

2026年8月9日

ヨエル書	3章1～17節
ゼカリヤ書	14章3～4節
ヨハネの黙示録	16章17～21節
マタイの福音書	24章29節

序：ハルマゲドンの戦いは八段階で行われる

- ①反キリストと同盟軍がハルマゲドン（イスレエル平原）に召集
- ②バビロンの崩壊・滅亡（反キリストの支配する統一国家、首都）
- ③エルサレムの崩壊
- ④ボツラにいるイスラエル人を反キリストとその軍隊が攻撃
- ⑤イスラエルの国家的回心（悔い改めとメシアへの信仰、嘆願）
- ⑥キリストの地上再臨
- ☆⑦ボツラ～ヨシャパテの谷（エルサレム）までの戦い
- ☆⑧勝利の主、オリーブ山に立つ

再臨の場所はオリーブ山（エルサレム）ではなくボツラ（ペトラ）

- ①ユダヤ人のうちの残りの民はボツラに避難していた（エルサレムを去って）
- ②エルサレムを壊滅に追い込んだ反キリストと諸国の連合軍は、残りの民を追ってボツラに向かい、包囲した　イスラエルは絶望状態の中で主に叫び求めた
- ③主は諸国に向かって怒り、すべての軍勢に向かって憤り、彼らを聖絶、屠殺した
主の剣は血が染み込み、衣は真紅に染まる（ボツラでの主 vs 反キリストの軍）
- ④主はひとりで戦われた
天使の軍勢なし、教会時代の聖徒たちも加わっていない
主はだれの助けも必要とされなかった
- ⑤ 再臨された主はまずユダの天幕（ボツラに避難していた民）を救い、その後エルサレムの住民を救う
- ⑥ボツラで始まった激しい戦いはヨシャパテの谷（エルサレムの東壁）まで続く

I. ボツラで始まった戦闘はヨシャパテの谷で終わる

ヨエル 3・12～13

ぶどうの実を踏む酒ぶねにたとえる

殺された敵軍の者たちの血は1600スタディオン（320 km）に達する

主のさばきは下された

Ⅱ. メシアは戦いに勝利した後、オリーブ山に立つ

ゼカリヤ 14・3～4

主は出て行き、国々と戦われる

勝利して、オリーブ山に立つ（エルサレムの住民を救うため）

※オリーブ山は真っ二つに裂け、北と南に移ると東西に大きな谷ができる
エルサレムの住民が大地震を逃れるために通る路となる

Ⅲ. 大患難時代の終わりには天変地異がある

ヨハネの黙示録 16・17～21（7つの鉢のさばき）

「事は成就した」と宣言する御座からの声

未曾有の強大な地震（稲妻＋雷鳴）

エルサレムが三つに裂かれた、諸国の町は倒れ、大バビロンは壊滅（倒れ/滅び）

地殻変動により、地形が激変する

1タラント（約55kg）の雹が降り、大災害（神を冒瀆）

マタイ 24・29

天体に異変（暗闇・落下、揺れ動く）

ヨエル 3・14～17

主の日の終わりに、メシアに対抗したおびたしい群衆が主に敗北する

太陽、月、星みな輝きを失い、暗黒となる

大地震が襲う

イスラエルの人たちに避難所が与えられる

※オリーブ山が裂けてできた谷が避難路となる

Ⅳ. 結び

(1)現在、私達も部分的には、天変地異の経験をしている。最終的最大の地震、地形が激変するほどの地殻変動の小規模の模擬体験 ⇒ 恐るべき将来への備え

(2)偶然ではなく、神の怒り・憤りによる当然の罰
ゆえに恵みにより救われることが、いかに感謝であるか

(3)まず、主はユダの天幕（ボツラに逃避していた残りの民のユダヤ人）を救い、次に、エルサレムのユダヤ人を救う約束を確実に果たす
優先順位があるが、救われるべき者は救ってくださる

(4)厳しく激しいハルマゲドンの8つの段階を見てきた
これが終局ではなく、千年王国、最後の審判、永遠の御国への備え